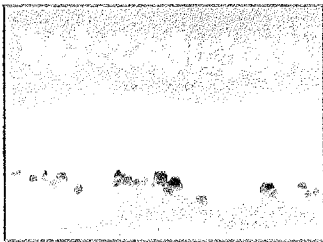


両親が別れて暮らすことになった子どもたちへ

(個人会員 片井祥子)

おだやかな家庭の中で、両親から愛されていることに何の疑いも持たず育っていく子どもたち。それがいつの間にか両親の言い争う声を聞き、冷たい関係を肌で感じる。両親は自分のことで精いっぱい、何も説明をしてくれないかもしれない。自分が良くない子だったからこうなったのだろうか？離れて暮らす親は、自分のことを見捨てたのだろうか？これからの生活はどうなるのだろうか？心の中に得体のしれない闇を抱え込んでしまった子どもたちが、自分の気持ちをわかってくれる絵本に出会うことができれば。そして力強く生きることを後押ししてくれたら。またこれらの絵本が、離婚する親の子どもたちへの指針になったら。

『あしたてんきになあれ』



薩摩菜々 作 永松美穂子 絵 未知谷 2005年

聞こえてきた両親が喧嘩する声。その不安をみさき(7歳)はお母さんに伝える。間もなくして両親は別々に暮らすことになったことを、ふたりの子に伝える。また両親は愛し合って結婚し、待ち望んで生まれた子がふたりであることもきっちり説明してくれた。そして出て行ったお父さんと明日会えることになった。「あしたてんきになあれ」

『パパはジョニーっていうんだ』

作/ポー・R・ホルムベルイ 絵/エヴァ・エリクソン

訳/ひしきあきらこ BL出版 2004年

別れて暮らすパパを乗せた電車を、ホームで待つティム。電車から降りてきたパパは、ティムを抱き上げる。そして二人で過ごす一日。ティムはうれしくてしかたがない。行く先々で「パパはジョニーっていうんだ」と自慢する。淡い色彩で、映画のシーンを追うように二人の満ち足りた思いが伝わってくる。離れて暮らす親とこんなふうに会えたらいいね。



『恐竜の離婚—変わっていく家族のために』

文 ローリーン・クラスニー・ブラウン 絵 マーク・ブラウン

訳 日野智恵 日野健 明石書店 2006年

絵本シリーズ「パパとママが分かれたとき・・・③」

おもに小学校中・高学年児童および中学生のために

両親が離婚する。これから家族はどうなるのだろうか。これから起こりうること、その時々の子どもの気持ち(混乱・誤解・不安)をきっちり説明し、そしてこんな風にやっていけばいいんだよと、背中を押してくれている。

6月の梅雨時の「おはなし会」は思いっきり笑って、鬱陶しい気分を一掃しましょう。
 ということで、今回は飛び切りスパイスの効いた絵本3冊を紹介します。

『ま、いっか!』 サトシン 作 ドーリー 絵 えほんの社 2015.5



「うんこ!」(ぶんけい)「どうぶつまぜこぜあそび」(そうえん社)などで、子どもたちに大人気のサトシンさんの新作です。小さなこと、大きなこと、どんなことにもくよくよせず、「ま、いっか!」の一言でマイペースなテキトーさんの物語です。ある日朝起きたら会社に行く時間を大幅に過ぎていました。でもテキトーさんは「ま、いっか!」いつものようにゆっくりと朝食を取り、ネクタイも適当にしめ、出かけます。どうせ遅刻するのだったら早く行っても仕方がない。バスに乗り新聞記事に夢中になって乗り過ごし、終点の海のあるところまで行ってしまいました。でも、テキトーさんはあわてず海で泳ぎまでして遊びます。さあ、この後テキトーさんはどうなるのでしょうか? 読んでいる私まで最後はどうなるのか心配になってきました。

『はいくないきもの』 皆川明 絵/谷川俊太郎文 クレヨンハウス 2015.4

なんとも奇妙な絵に谷川さんが5・7・5で言葉をつむいでいきます。絵は虫のようにも見えるし、植物にも見える不思議な生き物?です。右のページに絵が、左に俳句的な?言葉が……

例えば<おしめしべ まだ のんなりむ かふつふん> <くもととと
 るりんきるとせ ひがくれた> これをどう解釈したらいいのか?と野暮なことは言わない。ひたすらリズム感を楽しんでください。このリズムに乗ればすごく気持ちいい!!



『あつ、ほっ』 五味太郎 作 絵本館 2014.3

どこにでもいそうなお調子者の男の子。「はいみなさんおひさしぶりでござーいます!」とかなんとか言いながら歩いています。周りの子どもから相手にしません。ところが男の子はライオンと一緒に居座ってしまいました。み……一体何が起こったのかと考え……られた!! 覚悟を決めた男の子は死ぬ



たちは、またいつものことだと、はなライオンにぶつかってしまいますが、た。気がつくともわりは真っ暗や大変だ!ライオンの腹の中だ! 食べ間際に数々のいたずらを反省し騒

ます。この物語の山場です。この場面だけ文字が多いですが、よどみなく早口で読みましょう。

以上、いづれも個性的で、なおかつ手ごわい絵本ですので、取り扱いにはくれぐれも注意が必要です。 個人会員 JPIC 読書アドバイザー 諸岡 弘



『けんぼうのえほん あなたこそたからもの』

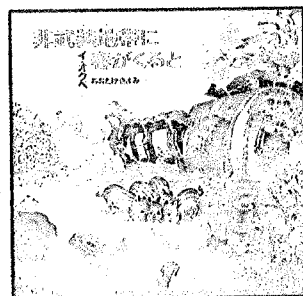
いとうまこと・ぶん たるいしまこ・え 大槻書店 2015

「はな、はな、たくさんのはな。 みんなはな、おなじはな、でも、いろもかたちもそれぞれちがう。そっくりおなじ はなはない」で始まる可愛い憲法の絵本。一人一人が大切にされる「個人の尊重：憲法 13 条」や「表現の自由：21 条」そして、「戦争放棄の憲法 9 条」などが、可愛く描かれている。

『非武装地帯に春がくると』

イ・オクベ作 おおたけきよみ訳 童心社 2011

朝鮮半島の南北を鉄条網で囲まれた非武装地帯。ここには人間は住んでいない。しかし、草花が育ち、鳥たちは自由に飛び交う。展望台から非武装地帯を見つめるおじいさんの目を通し、美しい自然の姿を描いている。

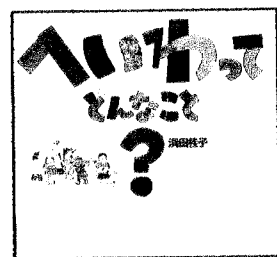


『だっこの木』、宮川ひろ作 渡辺洋二絵 文溪堂 2011

浅草の観音様の境内に立つイチョウの木は、東京大空襲の火の海から生きぬき、何年か過ぎて再び枝葉を伸ばした。小さな手を伸ばしてだっこしてくれたカズヤくん。戦争が終わって何年もたって、おじいさんになったカズヤくんが孫息子を連れて再びやって来る。

『へいわってどんなこと？』 浜田桂子 童心社 2011

へいわってこんなこと。浜田さんの楽しい絵が、「これが平和だよ」って語りかけてくる。当たり前なことだけど、子どもたちに平和というものを教えてくれる。「へいわって ぼくが うまれて よかったって いうこと。」世界の国の子どもたちがそうであって欲しい。



『かあさんはどこ？』

クロード・K・デュボワ作 落合恵子訳 ブロンズ新社 2012

突然の砲撃で家族と離れ、知らない人と逃げた。どこにいるのかどうなっているのか分からないまま、知らない人と一緒に逃げた。でも、かあさんはどこ？スケッチ風の優しいタッチの絵で綴られる。

(子どもの本・九条の会7周年記念集会で展示されていた絵本の中から)

思い出の絵本

もみじ文庫 小原恵理子

子どもたちも成長し、最近は読み聞かせをすることも少なくなりました。大人になった時に読み聞かせをした本のことを覚えてくれているかなと思った時に、自分が子どもの時に母に読んでもらった絵本の事や、小さい時によく読んだ本のことを思い出しました。

『はじめてのおつかい』

筒井頼子 作 林 明子 絵 福音館書店 1977年



みいちゃんという女の子の初めてののおつかいの物語。

まだ赤ちゃんの妹がいるみいちゃんは、お母さんに頼まれて牛乳を買いに出かけます。途中、猛スピードの自転車にドキッとし転んでお金を失くしそうになったり、お店に着いても大きな声でお店の人を呼べなかったり。ようやく買った牛乳でしたが、おつりをもらわずに走り出します。初めてのおつかいのドキドキ、わくわくが絵とお話から伝わってきます。

今の子どもたちのおつかいはスーパーやコンビニで、この本に出てくるようなお店ではないけれど、おつかいをしてみたいという子どもの思いは昔も今も変わらない。きっと、今の子どもたちの共感も得られることと思います。

『しょうぼうじどうしゃ じぶた』

渡辺茂男 作 山本忠敬 絵 福音館書店 1963年

小さなジープを改造して作った消防車の「じぶた」。消防署の花形 はしご車の「のっぽくん」、高圧車の「ぱんぷくん」、救急車の「いちもくさん」に比べると出番も少ないし、子どもたちにも人気もありません。それをじぶたはとても悲しく思っていました。山小屋の火事では小さい車体を活かして大活躍します。新聞にも載って子どもたちにも大人気になります。



どんなものにも役割があり、活躍できる場所があるんだということを伝えられる絵本だと思います。最近新聞で『しょうぼうじどうしゃ じぶた』のファンが「じぶた」を再現されたことを知りました。驚くほど精巧にできているという「じぶた」を見てみたいものです。

『14ひきのあさごはん』

いわむらかずお 作 童心社 1983年



こちらもご存じの絵本。ねずみの家族の生活が、森の自然と共に鮮やかに描かれています。森のどこかで、本当にこんな生活をしているねずみがいると小さな子どもなら思ってしまうことでしょう。本作では、14ひきが分担して、本当においしいような朝ごはんを用意する様子が描かれています。

このシリーズの10ひきのきょうだいを見ていると、必ずまわりと違うことをしている子たちがいます。寝ぼうをしたり、寄り道をしたり。子どもの頃は何げなく、また、大人になっても、これを面白おかしく子どもたちに読んでいたのですが、「戦後、子どもたちにも大人にも個の自由が認められた大切さを、子ねずみたちの自由な行動で作者が表現されている」と知り、絵本の深さを再認識しています。

ハロウィン

いつの間にか大きなイベントになったハロウィンです。

かぼちゃ・おぼけ・魔女といった言葉を手掛かりに文庫の本棚を見てみると、案外たくさんの絵本がありました。私が小さい頃に読んだ本には、「ハロウィン＝キリスト教の万聖節の前日。日本のお盆にあたる」と注釈があつて、全く何のことか見当がつかなかった覚えがあります。年寄りめいた言い方ですが、今の子は絵本でいつのまにかハロウィンになじんでいるのですね。



「魔女たちのあさ」 文・絵 エドリアン・アダムズ 訳 奥田継夫
アリス館牧新社 1977

森の奥深くに住んでいる魔女たちは、暗闇の中、月がのぼる頃起きだして活動開始。ほうきにまたがり、空の上で踊りまわります。地上に降りてみると、恐ろしい怪物たちに出くわします。魔女も身を隠すこわいものってなんでしょう。



「ハロウィンってなあに？」 作 クリステル・デモワノー 訳 中島さおり
主婦の友社 2006

ハロウィンの由来から、かぼちゃのランタンやタルトの作り方、変身のアイデアまで、魔女のおばあちゃんが教えてくれます。



「ハロウィンナー」 作 デーヴ・ピルキー 訳 金原瑞人
アスラン書房 1998

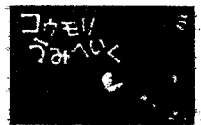
ダックスフントのオスカーはみんなにウィンナーと呼ばれるのが大嫌いです。ところがお母さんが作ってくれたハロウィンの衣装はホットドッグの着ぐるみでした。ハロウィンの晩それを我慢して着たオスカーは、オスカーならではの活躍をして、ウィナー（勝利者）になるのです。

ハロウィンは直接出てきませんが、つながりで読んではどうでしょうか。

「はしれ！カボチャ」 文エバ・メフト 絵アンドレ・レトリア
訳宇野和美 小学館 2008



「コウモリうみへいく」 作・絵ブライアン・リーズ
訳さいごうようこ 徳間書店 2009



「魔女ひとり」 ローラ・ルーク作 S.D.シンドラー絵
金原瑞人訳 小峰書店 2004



(太田一子)

子どもの世界の理解に近づくきっかけが絵本の中にはあります。



ふしぎなおたまじゃくし
スティーブン・ケログ/作
すずきまきこ/訳
錨といるか社 2001

スコットランドに住むおじさんから誕生日にビンに入ったプレゼントが届いた。オタマジャクシかな？ ルイスが学校に持っていくと、先生はみんなが観察できるよう、時々持ってきてねと頼みました。ところがアルフォンスと名付けたそれは、どんどん大きくなって、流しにも、お風呂にも入りきれなくなって…理解してくれおとながいると思う存分できるからいい。

アンドルーのひみつきち
ドリス・バーン/作 千葉茂樹/訳
岩波書店 2015

アンドルーは姉弟5人の真ん中。二人の姉さんはいつも一緒。弟たちもいつも二人で遊ぶ。でも淋しくなんかない。だってアンドルーはもの作りに夢中だから。でも、家の中では家族から「じゃまだからどかしてちょうだい」と得意の発明品に文句を言われてしまう。そこでアンドルーはトンカチ、ノコギリ、ナイフにペンチ、釘…道具を袋に詰めて家を出た。どんどん歩いて行って、森のはずれの原っぱに家を立てることにした。自分だけのひみつ基地を作ったはずなんだけど…



クリスティーナとおおきな箱
パトリシア・リー・ゴーチ/作
ドリス・バーン/絵 おびかゆうこ/訳 借成社 2014

クリスティーナの家新しい冷蔵庫が届いた。空の箱を庭に引きずって行って、お父さんに窓と扉を開けてもらった。塔の絵を描くとお城だ。隣のファツが来てクッキーを食べてしまっ

たのでお城に閉じ込めたら、お城を蹴飛ばしてしまっただけ。お城はおしまい。でも…でも…これは秘密基地だよ！ 早く片付けようとするおかあさんが、クリスティーナの箱は次々いろいろに変わっていった…

子どもたちの旺盛な好奇心、特有の想像力、ひたすら前向きの突進力が作り出す豊かで魅力的な世界が広がります。

鈴木晴代

きつね、きつね、きつねがとおる
伊藤遊/作 岡本順/絵

ポプラ社 2011 家族で出かける。

結婚式の花嫁さんだ！どこどこ？人

だかりで見えない。大道芸をやってるよ。見えないっ！。レストランのコックさんの仕事ぶりもカウンターが邪魔で見えない。お祭りの行列も人垣で…小さいから見えないものがたくさんあって残念。でもでも、子どもだから見えることもある。キツネの花嫁行列、キツネの大道芸に、キツネのコックさん…

お父さんもお母さんにも見えないんだって。



冬の絵本のおすすめです

わたぼうし文庫 村田 美登里



『クリスマスのまえのぼん』クレメント・C・ムーア/ぶん

ウィリアム・W・デンス/え、わたなべしげお/やく 福音館書店 1996

12月といえばクリスマスですね。

赤い服のサンタさんが一般的になるよりも前、1822年に書かれた詩で、この絵は1902年に描かれました。昔のサンタさんはこんなかっこうだったの？ 煙突から入ってきてたんですものね…。サンタさんのトナカイたちへの愛も感じられます。

クリスマスの絵本は毎年のように、沢山出版されています。

私は12月になると、福音館書店のこの絵本をお話会で読んでいますが、ほかにもムーアの詩をもとにした絵本がいろいろ出ています。

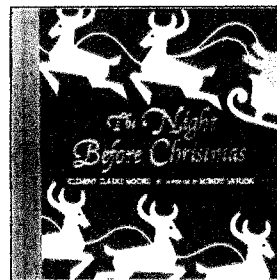
『クリスマスイヴのこと』アニタ・ローベル絵 松井り子訳 セーラー出版 1993

『あしたはたのしいクリスマス』モニカ・スティープンソン写真 角野栄子訳 小学館 2000

『クリスマスのまえのよる』ロジャー・デュボアザン絵 こみやゆう訳 主婦の友社 2011

『聖ニコラスがやってくる!』ロバート・インクベン絵 柳瀬尚紀訳 西村書店 2011

『ナイト・ビフォー・クリスマス』は飛び出す仕掛け絵本



見比べて、自分の好きな絵、訳の一冊を探すのも楽しいのではないのでしょうか。



『しめかざり』森 須磨子/作・絵 福音館書店 2010

年神様をお迎えして、良い年が迎られますようにとお祝いをするのがお正月です。暮れになると大掃除(すすはらい)をして、玄関や、たいせつな所にしめ縄を飾りますよね。さてそのしめ飾りはどこにどんな意味で飾るのでしょうか。

自分で縄をなって作ってみるのも、ちょっといい経験になりますよ。

地域によっても形などいろいろ違うようです。お正月前にちょっと勉強。

土の中で春を待つ・小さなくたね>のおすすめ絵本



『皇帝にもらった花のたね』デミ作・絵 徳間書店

何度か小学校で読みましたが描写が細かい絵ながら、子ども達は主人公になりきって聞いてくれます。少年が花を咲かせようと苦心しているところや、芽の出ない鉢を皇帝にさしだす勇氣を読み取ってくれていると思います。

『じっちょりんのふゆのみち』かとう あじゅ作・絵 文溪堂

春夏秋冬のシリーズがあります。歩道のすきまや塀の割れ目など思いがけない場所で草や花を見つけたら、それはじっちょりん達の仕事。縁側やベランダの下の地面で暮らすこの小さな人達が寒空の下凍えてしまうのかと心配していましたが、「ふゆのみち」を読んで安心しました。身近な草花の名前も教えてくれるし、ページ毎の小さなハート探しなどお楽しみ満載。

『庭をつくろう』ゲルダ ミューラー 作・絵 あすなろ書房

「ぼくの庭ができたよ」1989年の改訂版。細部まで丁寧に描かれた植物の絵は大判になったことで一層見応えがあります。春夏秋冬と庭で過ごす時間の豊かさがあふれています。町なかのリンゴの木のある広い庭なんて、なんとぜいたくなんでしょう！親子でガーデニングを始めたくりますよ！

『花のたね・木の実のちえ2 スミレとアリ』多田 多恵子監修 偕成社

スミレは白いゼリーのごちそう付きでアリにたねを運んでもらっています。白いところだけかじり取られたたねは、すてられてそこで小さな根をだします。ゼリーに食いつくアリの拡大写真、足取りがうれしそうです。



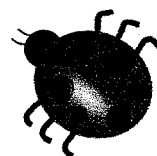
★他にもおすすめ

『にんじんのたね』クラウス作 ジョンソン絵 こぐま社

『にげだした てじなのたね』田中 友佳子 作・絵 徳間書店

『うえきばちです』川端 誠 作・絵 BL出版

『ティッチ』ハッチンス 作・絵 福音館書店



(個人会員 塚脇 節子)

絵本ちゃんのおススメ絵本

声に出して読み合おう！
谷文絵

3人にちは、2人にちは。暖冬で過ぎやすかった年末年始。そして突然の寒波。そして又めくめく...とおかしな気候に振りまわされておりますが、みなさまいかが？ 万過ぎしのこでしゅう？ 絵本ちゃんはおススメ屋、でありながら趣味の東北伝統二ヶしが増えてきて「二ヶし屋」か?! という店内であります。そこで、まずは二ヶしの絵本からご紹介いたします。



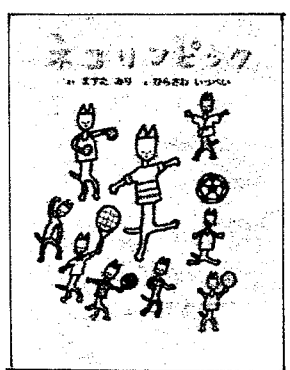
「二ヶしのゆめ」 あー、なんぞ昭和チックな絵でありましょ！ 古びたお土産物屋で売れ残ったシヤコとコケシの二ヶし姉妹。娘たちのお嫁しは、店前を行かう人たちの夢をのぞくこと。そして自らも夢見る二ヶし姉妹。そへ土産物屋の孫があらわれ、二ヶし姉妹たちの夢は、かなうのでしょうか？ たまには、こんなジャンルな絵本もおもしろいのではないかしら。

さく・チャーチ-絵本
え・いぬんこ
学研教育出版・刊

それから「ほしじいたけほしあたま」
表紙絵だけでもニマリと笑ってしまいます。たんと味のあるお姿ではありませんか。「ほしじいたけ」に「ミ」をつけただけで「ほしじいたけ」に「ミ」をつけただけで「じいさんほしじいたけ」という発想も愉快ですが、実はこの2人がカッコいいスパイ長老ほしじいたけなんですよ。ふふふ、なるほど!! と爆笑間違いなせ。



石川基子・作
講談社・刊



いやあ、私も紹介しますか？

さく・まおた"みり
え・ひろあけいぱい
ミシマ社・刊

最近のマイム(←死語ですか?笑)なんた"にやん
「ネコリンピック」 よーいどんで「ほらなくていいんだ"にやん

「ネコリンピック」 よーいどんで「ほらなくていいんだ"にやん
なんでもありのゆるゆるネコちゃん達のネコリンピック、私も参加したいにやん。いつスタートしてもいいんだ"にやん。今年も、オリリンピックの年ですが、ネコリンピックみたいたいのが、いいにやん。

先号も紹介させていただきます

「ウラオモテヤマネコ」 伊呂オモテヤマネコ祭見50周年記念として出版
・井上奈奈・作
堀之内出版・刊
「さいごのせう」も
・井上奈奈・作
キーススタジオ21ソーシカルブックス

かとうあじゆ・作
文溪堂・刊
「じゅちやん」
シリーズも
大好きです!!
足元に注目!!

オモテとウラ...ウラオモテヤマネコと少女を通じ世界を想い、宇宙までも想い、考える絵本です。

春 三月 巣立ちの季節 新しい一歩を踏み出すために！



『エアリアは北へ』 山口理・作 夏目尚吾・絵 (アリス館)

小学六年生、スポーツ少年のエアリアは、ケンカっばやい上に、けって自分の非を認めません。そんな自分や他人に苛立っている時、母の勧めで、エアリアという名前のルーツをさぐる旅にでることになります。日本最北端の地、北海道の礼文島をめざし、自転車で走る1000キロの旅。良くも悪くも予想のつかない毎日で、災難をひとつずつ乗り越えながら、見知らぬ人とのつながりや、人の気持ちのあたたかさを思い知らされ、辿り着いたゴールで、自分にとって一番大切な絆のあかしをみつけるのです。



『太古の森へ』 三輪裕子・著 川村みづえ・イラスト (小峰書店)

こちらの主人公、千沙は小学校を卒業したばかりの女の子。父親の知り合いの子どもに付き添い、ニュージーランドへ行くのですが、両親の別居や、友だちとの関係に悩んでいた千沙は、自分を取り巻く状況に反発し、素直に楽しむ気持ちにはなれません。しかし、何千万年も前の姿のまま残っている太古の森、<シルフォードトラック>の奥深くに分け入るうち、心はすこしずつ鎮まり、この場所で自分を取り戻すために、まっすぐに歩いていくのです。

『どろんこぶた』 アーノルド・ローベル 著 岸田衿子 訳 (文化出版)

ぶたは、泥の中に からだをすずめてしまうのが 一番安心みたいです。人間も落ちついて休める場所を自分の中に持ってさえいれば、未知の世界への冒険もできるはず。

『はなのすきなうし』 おはなし ローリーフ え ロバート・ローソン やく 光吉夏弥 (岩波書店)

花のにおいを かいでいれば しあわせになれる牛 フェルジナンド。ひよんなことから 闘牛として抜擢され、大勢の見物人の前に連れて行かれてしまいます。しかし、やっぱり 大好きな 花のにおいに引き寄せられて…。フェルジナンドは無事にもとの まきばに もどってきます！ 自分を見失わずにじっくりと生きたい。

『ふしぎなはなや』 ぶん 竹下文子 え 杉浦範茂 (フレーベル館)

ぼくの両親がやっているフラワーショップでは、ときどき不思議なことがおこります。すましたお客さんがくると花がしおれたり、温室のおくにライオンがいたり、なにか秘密があるみたい。女の子みたいでイヤだと思っていたけれど、やっぱり はなやになるのかな。

『なりたいものだらけ』 ジェリー・スピネリ 作 ふしみみさを 訳 (すずき出版)

大きくなってなりたいものは沢山ある。タンポポのわたげふきやさん。プレゼントあけあけやさん、ゆきだまごろごろやさん、…どれもこれもなりたい。なりたいものだらけ！

